

生物多様性リスクと株式市場

—初期の文献レビュー—

屋嘉比 潔

目 次

- | | |
|------------------------------------|---------------------------|
| 1. はじめに | 3. エビデンスから読み解く生物多様性リスクの論点 |
| 2. 情報開示、生物多様性リスク、株式市場に関する先行研究のレビュー | 4. おわりに |

本稿は、生物多様性リスクが株式市場にどのように織り込まれ始めているかについて、早期の実証的証拠を整理し、現状を概観する。テキスト分析やフットプリント指標を用いた研究では、情報開示や国際的な政策イベントが企業の株価形成に影響を与えており、特にCOP15やTNFDを契機に関心が高まりつつあることが示された。一方で、指標の標準化や開示の質の向上など課題も多く、今後の研究の蓄積が不可欠である。

1. はじめに

近年、生物多様性の喪失は地球規模で深刻な課題となっており、企業や投資家にとっても看過できないリスクとして認識され始めている。国連の生物多様性条約（CBD）やIPBES（Intergovernmental Science-Policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services）の報告書でも示されている通り、生物多様性の保全は生態系サービスの維持のみならず、人間社会や経済の持続可能性に直結する問題である（IPBES [2019]）。とりわけ、2021年の昆明宣言や2022

年の国連生物多様性会議（COP15）に代表される国際的な政策イベントを契機として、資本市場でも生物多様性リスクを考慮する動きがみられるようになった。

ところが、生物多様性リスクに関する資本市場研究は、気候変動リスク研究と比較して依然として蓄積が十分ではない。測定指標や開示基準が統一されていない上、企業活動が生態系に及ぼす影響は多層的・地域的に異なり、単純な定量化が難しいという問題がある。これまでに公表された論文は、経済ニュース記事や企業の年次報告書などテキスト情報を用いた分析や、生物多様性フット



屋嘉比 潔（やかび きよし）

九州大学 大学院経済学研究院 経済工学部門 数理情報講座 助教。2025年3月大阪公立大学 大学院経営学研究科 博士後期課程修了。博士（経営学）。主要論文として、「四半期決算発表に対する市場反応の実証分析」（『証券アナリストジャーナル』62(10)、2024年、共著）がある。